

■VMwareサポート状況

2013/9/12

モデル	型番	ESX 4.1	ESXi 5.0※4	ESXi 5.1※4
iStorage Sシリーズ ※1 (パスポリシー: FIXED,Round Robin)	S500	○	—	—
	S550	○	—	—
	S1400	○	—	—
	S1500	○	—	—
	S2500	○	—	—
	S2800	○	—	—
	S2900	○	—	—
	S4900 ※2	○	—	—
iStorage Aシリーズ ※2 (A2700/A4900/パスポリシー: FIXED,Round Robin) (A5000/パスポリシー: MRU,Round Robin)	A2700	○※5	—	—
	A4900	○※5	—	—
	A5000	—	—	○※6
iStorage Eシリーズ (パスポリシー: MRU)	E1-10(FC) ※2	○	○	○
	E1-10(iSCSI) ※3	○	○	○

※1 iStorage SシリーズではS4900を除きのFC構成方法として、「FCスイッチ」のみサポートしています。ポイントツーポイント及びファイバー チャンネル調停ループ(FC-AL) は、構成できません。

※2 FC直結構成とFCスイッチ経由の構成がサポート可能です。

※3 スイッチの手配が必須です。

※4 ESXi環境でマルチパスを構成した場合、ESXiの機能によりHBAフェイルオーバーとSP (Storage Port) フェイルオーバーが可能ですが、iStorage StoragePathSaviorにより、iStorage製品にチューニングした冗長パスの管理/制御が可能となります。iStorage StoragePathSaviorは、VMware vSphere5 Enterpriseエディション以上でご利用いただけます。

(機能: vStorage APIs for Multipathing)

・iStorage StoragePathSaviorについては、以下のサイトをご参照ください。

http://www.nec.co.jp/products/istorage/product/san/software/sps_m/index.shtml

※5 VAAIに対応 (Block Zeroingのみサポート)

※6 VAAIに対応 (Thin-Provisioningは未サポート)

※ Permanent Device Loss (PDL) に対応しており、All Paths Down(APD)が発生した際、ESXi の動作が不定になることを防止できる場合があります。ただし通信経路の冗長化により単一障害点が発生しないようなシステム構成を強く推奨しています。

参考Knowledge Base:

Permanent Device Loss (PDL) and All-Paths-Down (APD) in vSphere 5.0

<http://kb.vmware.com/kb/2004684>

※ 1台のESX, ESXiに8GbのHBA、4GbのHBA および2GbのHBAを混在構成することはできません。

※ iSCSI環境でPort Bindingを構成する場合は事前にストレージ装置がマルチセッションに対応しているか確認してください。マルチセッション非対応の装置である場合は、VMkernelポートIPアドレスを別々のセグメントに設定し、マルチセッションとならない構成にしてください。

・ESX 4.1以降のすべてのUpdateで使用可能です。

・ESX環境でマルチパスを構成した場合、ESXの機能によりフェイルオーバーが可能です。HBAフェイルオーバーとSP (Storage Port) フェイルオーバーをサポートします。このマルチパス・サポートは特定のフェイルオーバードライバを必要としません。
※ SystemGlobe Storage PathSaviorは構成不要です。

・iStorageのFCスイッチ製品を手配する場合は以下モデルのものを使用してください。

WB6505, WB6510, WB305A, WB310A, WB330A, WB340A, WB512A, WB514A